

避難時の心得

万一、避難することになったら、冷静に状況判断しながら、安全な避難を心がけてください。

家族会議を開きましょう

- 家族の連絡方法を確認しておきましょう。
- 家族の役割を決めておきましょう。
- 最終的に落ち合える避難場所を決めましょう。
- 消火について確認しましょう。



安全な避難経路の確認を

あらかじめ自分たちで複数決めておいた避難場所までの経路（避難経路）は、安全に通行できるかを確認して避難しましょう。



家を出る時

避難する前に、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓をしめましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておき、避難先を確認しましょう。非常持ち出し品を忘れずに！



50cmの水深でも歩行は困難

歩ける深さは、大人の場合でも50cmまでです。水深が膝まであるようなら高いところで救助を待ちましょう。



水面下は危険です

水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。



正確な情報収集

ラジオ・テレビで最新の避難情報、気象情報、災害情報に注意しましょう。



避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、市役所や消防署から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。



動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。サンダル等は禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。



台風や大雨のときは「屋内待避」「垂直避難」

台風や大雨のときは、道路の冠水などで、屋外に出ることがかえって危険な場合があります。まずは自宅等の屋内で待避してください。大規模な浸水被害が想定される場合は、自宅や近くの丈夫な建物の2階以上に「垂直避難」します。



車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合を除き、やめましょう。

